

認定こども園せんだい幼稚園 園長 田原 慎也

## 新年あけましておめでとうございます

新年あけましておめでとうございます。旧年中も皆様にお  
支え頂きお陰様でまた新たな1年を迎えることができました。  
今年も子どもたちにとって実り多き一年にできるよう職員一同、  
努めて参ります。本年もどうぞよろしくお願  
い致します。

\*\*\*\*\*

日本は世界的にもトップクラスの長寿国となっており、あ  
る海外の研究では「2007年に日本で生まれた子ども  
の半数は107歳より長く生きる」と推計されています。  
(首相官邸:人生100年時代構想会議中間報告より)  
人生100年時代に突入すると、従来のような教育・仕  
事・老後という3ステージの単線型の人生ではなく、多様  
な道筋を持ったマルチステージの人生を送るようになる  
と言われています。

2021年4月に施行された改正高年齢者雇用安定法で  
は、65歳までの雇用確保を義務としたうえで65歳から  
70歳までの就業機会確保の努力義務が新設されまし  
た。人生100年時代の到来を考えると、長い期間現役  
で働く方も増え、将来的には70歳定年制の義務化に  
繋がっていくだろうと予想されています。

これまでの歴史を振り返っても類を見ない水準の人口減  
少が続くこの日本の現実や大きく変化する社会構造を  
目のあたりにすると、3児の親としても漠然とした不安も  
ありますが、だからこそ子どもたちが今、「何を」「どのよ  
うに」学ぶかがとても大事だとあらためて身を引き締める  
思いになります。

20年程前から当園に描画・造形活動の職員指導に  
来てくださっている岡山大学大学院の大橋功先生は子ども  
たちへのアート・美術教育の重要性を丁寧に教えてくだ  
さいました。3~4歳児は現実とファンタジーの間を行っ  
たり来たりしながら遊びます。砂場でお皿に砂をたっぷり  
と盛る子どもたち。「ほら、カレーができたよ、食べて食べ  
て」と子どもたちから差し出されて「じゃあ、いただきまー

す」と、私がおもちゃのスプーンを使って本当に口に運ん  
で食べようとする、いくら子どもたちでも「だめ!だめ!本  
当のカレーじゃないんだから・・・」と制してきます。リアル  
を感じつつファンタジーの世界で作りたいものを作ったり、  
なりたいたいものになったり、行きたいところへ行ったりす  
ることができるのです。

5歳頃からはそれが架空の話であることをしっかりわかり  
つつ、遊びとしてお話の世界に身を投じ、演じて楽しむよ  
うになります。それは単なるファンタジーではなく、子ども  
なりの思いや願いを実現する問題解決のための創造的  
なプロセスでもあるのです。

身近な生活の中で体験すること、見聞きして知っているこ  
と、興味を持っていることなどから発想しながらも、自由  
で楽しい想像の世界でロールプレイしながら実現すべき  
価値に向かい問題解決していくのです。

「この見本通りに作るんだよ」と、大人のイメージを子ども  
を使って描かせる・作らせるだけの活動に終始してしまう  
と、そういった想像を楽しむことができません。見本通りに  
上手に描けない・作れないことに自信をなくして美術嫌  
いになる人が多いように感じますが、本来美術は見本な  
どあるはずもなく、「自分らしく表現することの楽しさを味  
わう(自己肯定感、自分らしさ)」、「既存にない発想を  
楽しむ(想像し、創造する)」ものであるべきです。

これからの時代を考えると、まさに現実の中から想像しな  
がら新たな「より良い社会」を創造していく力が必要で  
す。それは本来、3~5歳児の発達の中で十分に楽しみ、  
味わっている世界なのです。それを「もっとリアルに表現  
するんだよ」「そうじゃないでしょ」と大人の価値観を押し  
付けすぎてしまうことが考えることの楽しさを奪うことにも  
なりかねません。

性急になりすぎずに子ども時代を存分に味わう。それが、  
どんな未来も肯定的に受け止め、現実の中から想像し  
て、創造する力強さを持った子どもたちに育つために必  
要なことではないかと考えています。